

第4回 積雪寒冷地における道路舗装の長寿命化と

予防保全に関する検討委員会

議事概要

■ 第4回検討会：令和4年12月22日（木）

【議 題】

- ・舗装点検・診断に関する情報提供
- ・現場実証（試験施工）について
- ・低温ひび割れ詳細調査について

【議事概要】

- 各委員より舗装点検・診断に関する情報提供、現場実証（試験施工）、低温ひび割れ詳細調査について報告があり、以下を確認した。

◇舗装点検・診断に関する情報提供

- ・AIを活用した舗装点検・診断（以降AI舗装点検）を全道15路線、対象区間約695km、車線延長約1,400kmの国道で試行した。
- ・AI舗装点検は、従来点検と比較してコスト面、労力面ともに7割～8割の削減が見込まれる。
- ・AI舗装点検は、来年度、開発局で本格運用になり、コストや省力化もわかってくるので、情報を公開し普及に繋げることが重要である。

◇現場実証（試験施工）について

- ・耐久性の高い舗装を設計・施工する技術について全道6箇所現場実証（試験施工）を行った。
- ・標準工区と現場実証工区の路面の状況を計測し、追跡調査することが重要であるが、交通量や気温等の気象データとの関係性も把握することで詳細検討に活用できる可能性がある。
- ・これまで情報提供や現場実証した技術に加え、積雪寒冷地特有の損傷に対応した多くの新しい舗装技術を募集し、現場実証していくことが重要である。

◇低温ひび割れの詳細調査（案）について

- 低温ひび割れは、数メートルごとにひび割れが入っており、シーリングされている箇所からも水が浸透し、劣化が進んでいる事が分かった。
- 今後は切取供試体を用いた室内試験を行う予定。
- 低温ひび割れのメカニズムについて、素朴な疑問を一つずつ潰していくと新しい発見が生まれてくると期待している。

以上